

いもり池・いもり谷で見られる昆虫

キイトンボ (イトトンボ科)



体がまっ黄色のため、良く目立つ美しい中型のイトトンボです。メスは体が緑色のものが多いです。少なくなっている種ですが、いもり池では夏に多く見られます。

ムカシヤンマ (ムカシヤンマ科)



原始的なタイプのトンボです。日本特産種で兵庫県版レッドリストBランクに指定されています。一見オニヤンマに似ていますが、少し小さくて、羽を広げて平らに止まります。いもり谷では春から夏に時々見られます。

ヒメアカネ (トンボ科)



体調が28~37mmと小型の赤トンボです。オスは成熟すると顔面は灰色に、腹は真っ赤になります。写真の前がオスで後がメスです。全国的に少ないものの、いもり池では夏から秋に多く見られます。

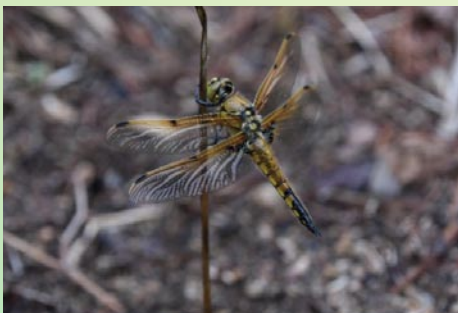
カツラネクイハムシ (ハムシ科)



湿地のスゲの仲間を食べる体長7mmほどのハムシです。1980年にいもり池で発見され種名に発見者の名前が付けられました。兵庫県版レッドリストBランクに指定された貴重な昆虫です。

他にもみられる昆虫

ヨツボシトンボ (トンボ科)



ミズスマシ (ミズスマシ科)



マツモムシ (マツモムシ科)



ヒメキマダラセセリ (セセリチョウ科)



いもり池・いもり谷で見られるその他の生き物

アカハライモリ (両生類)



きれいな水辺に生息しています。真上から見ると黒く見えますが、お腹の様子が赤・黒混じっていて個体ごとに混じり具合が違います。お腹が赤い所からアカハラと言われてます。

モリアオガエル (両生類)



水辺に張り出す木の枝に白い泡状の卵塊を産み付けます。オタマジャクシになると下の池にポトンポトンと順番に落ちていきます。周りの森の樹の上で暮らすカエルです。

タゴガエル (両生類)



伏流水が流れているような湿地の隙間や土の穴に産卵します。産卵の頃は体色は黒っぽくなりますがそれ以外は赤褐色の色をしているきれいなカエルです。

残念ながら見られなくなった植物

トキソウ (ラン科・6月)



日本を代表する鳥「トキ」に花の色が似ていることから、名づけられました。一本の花茎に赤紫色の花が1つつきます。湿地に生育するのですが、阪神間でも少なくなっています。兵庫県版レッドリストのCランクです。

コバノトンボソウ (ラン科・6~7月)



小さな葉があり、花の様子が竿さかに小さなトンボが縦に並んで止まっているように見えることから名づけられました。兵庫県版レッドリストのCランクに指定されています。

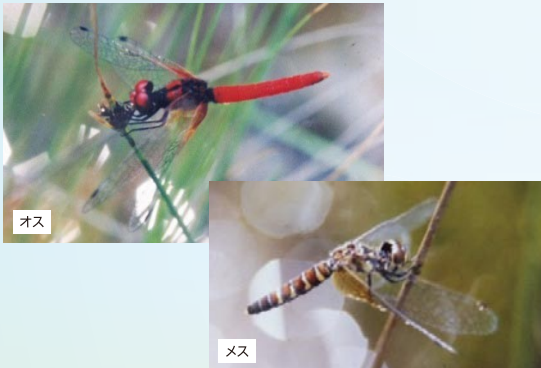
カキラン (ラン科・6~7月)



花の色が柿色をしているので名づけられました。湿原では見る機会が比較的多い種です。兵庫県版レッドリストのCランクに指定されています。

残念ながら見られなくなった昆虫

ハッチョウトンボ (トンボ科)



体長が20mmほどで、世界で最も小さいトンボです。主に6月から7月に流水のある湿原で見られます。いもり谷でも以前は見ることができましたが、2005年頃以降は見つかりません。写真上がオスで下がメスです。

ヒメヒカゲ (タテハチョウ科)



小型で羽の表は地味ですが、裏は蛇の目模様が美しいです。湿地や草原で6月に見られますが、全国的に少なくなり、いもり谷でも1990年前後に絶滅したと思われる。

クロシジミ (シジミチョウ科)



シジミチョウの仲間ですが、生活史が特異で、幼虫の初期はアブラムシと、大きくなるとオオクロアリと共生して蛹になります。兵庫県ではほとんど見られなくなり、いもり谷周辺で1982年に一度だけ見つかりました。

新しく見られるようになった昆虫

ヨコズナサシガメ (サシガメ科)



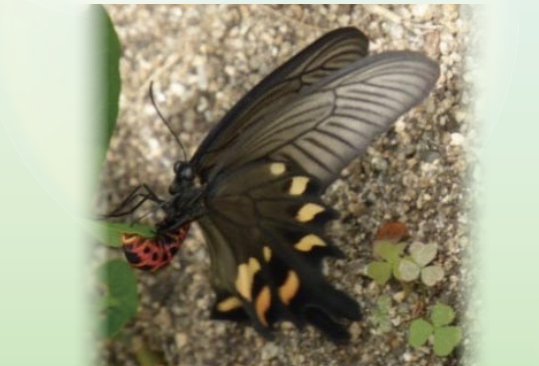
カメムシの仲間ですが、針状の口で昆虫などを刺して体液を吸い取るためサシガメと呼ばれます。中国から東南アジアが原産で、2000年ごろから日本各地に拡がり、芦屋でもよくみられます。

ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)



以前は少なかったものの、近年よく見かけるようになったチョウです。種名はヒョウ柄の模様とメスの羽先が黒いについた名前です。左がメス、右がオスです。

ジャコウアゲハ (アゲハチョウ科)

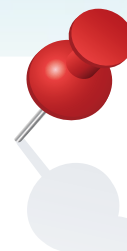


大型のアゲハチョウですが、他の種に比べゆったりと飛ぶ姿は優雅です。オスの羽は黒色ですが、メスは薄い明るい褐色です。オスの成虫がジャコウのような香りを出すことからついた名前です。写真はメスの成虫です。

おわりに

芦屋は阪神間の都市部に位置しながらも、六甲山から芦屋川などの川、そして海へと連なる多様な自然環境を有しています。とくに、今回ご紹介した、いもり池・いもり谷周辺の自然は、芦屋のなかでも、めずらしい生きものをたくさんみることができる、貴重な場所になります。このような場所が私たちの身近にあることを知っていただき、興味をもっていただくことが、これからも守り、共生していくことにつながっていくことから、このガイドブックをつくりました。このガイドブックが、少しでもそのきっかけになればと願います。

また、このガイドブックを作成するにあたって、この場所を長年にわたり大切に保護してくださっている所有者の方々や、保全活動をしてくださっているの方々、調査に携わってくださった方々に、心からお礼申し上げます。



観察をする時に守ってほしいこと

- ① 植物や昆虫等を採って持ち帰らないでください。
- ② 水際に生きものが多く生息しているため、水際は歩かないでください。
- ③ 貴重なコケやランなどはどれも小さいため、足元に注意をお願いします。
- ④ 他の生物を持ち込まないでください。

参考文献：このガイドブックは、平成29年度に実施した「いもり池及びいもり池周辺調査」の調査結果をまとめたものです。

平成30年9月1日発行

お問い合わせ：環境課 保全係

TEL：0797-38-2051